

みらい



桔梗(キキョウ/キク目・キキョウ科)
多年草。英名は「Balloon flower」
漢方では乾燥した根を咳止めや
鎮静、解熱の薬として用いた。
秋の七草の一つ(朝顔)とされ、
古くは万葉集に詠われている。

No.7

主な内容

平成30年
2月議会・6月議会
要旨報告

討議資料

発行責任者/渡部 英治 ■ 編集責任者/三浦 茂人



今こそ、県政課題へ果敢にチャレンジ!



秋田県議会 会派みらい 代表
議会選出監査委員
教育公安委員会

渡部 英治

皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、防衛省が地上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」(地上イージス)の配備について、秋田市の陸上自衛隊新屋演習場を“最適候補地”と表明したことに對し、地元はもとより秋田県全体の問題として、その必要性と配備の在り方などについて十分な検証のうえ、地域住民と地元自治体の理解や協力がないうままに「イージス・アショア」の配備計画を進めていくことがないよう強い姿勢で臨みます。

平成30年2月議会 代表質問

一方、依然として歯止めのかからぬ少子化、新たな農政プランへの対応など、課題が山積みしている本県にとって、県政の最重要課題である人口減少対策、とりわけ魅力ある職場の確保による「若者の定着」や「子育て支援」などの重要施策に、今こそ、果敢にチャレンジする覚悟であります。

皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



2月議会

平成30年・第1回定例会
2月14日～3月20日

平成30年度当初予算は、「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の初年度となることから、「秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略」など、プランに掲げた6つの重点戦略に基づく施策・事業を中心に計上されました。

当初予算の主な内容

① 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略

新 男女イキイキ働きやすい職場づくり推進事業

…………… 2,362万円

女性の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、経済団体等との連携により女性活躍や仕事と育児・家庭の両立支援に取り組む企業を支援する。

② 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略

新 小規模企業者元気づくり事業 …………… 3,293万円

経営力向上に意欲のある小規模企業者が、各種専門家の指導及び商工団体からの支援を得ながら行う、販路開拓及び業務効率向上に向けた取組に対して支援する。

③ 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略

新 新時代を見据えた秋田スギ流通システム構築事業

…………… 1,105万円

県内の素材生産企業と木材加工企業の木材需給のミスマッチを解消するため、ICTを活用した木材クラウドの開発を支援し、立木情報の共有化を図る。

平成30年度 一般会計 当初予算

5,802億6,000万円

④ 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

新 八橋陸上競技場整備支援事業 …… 3億 1,705万円

ブラウブリッツ秋田のJ2クラブライセンスの取得に向け、秋田市が行う八橋陸上競技場の改修費用等に対し助成する。

⑤ 誰もが元気で活躍できる健康寿命・地域共生社会戦略

新 たばこによる健康被害予防推進事業 … 402万円

喫煙率の低減や受動喫煙の機会を減少させる施策等を推進し、たばこを原因とする生活習慣病を予防する。

⑥ ふるさとの未来を拓く人づくり戦略

新 スクール・サポート・スタッフ配置事業

…………… 3,744万円

教員の負担軽減を図るため、教員をサポートする非常勤職員を配置する。

2月議会 代表質問



渡部 英治 [大仙市仙北郡]

- ◆ 第3期ふるさと秋田元気創造プラン・「高質な田舎」について
- ◆ 知事の政治姿勢について
- ◆ 人口減少対策について
- ◆ 秋田の魅力アップについて
- ◆ スタジアム整備について
- ◆ 農業政策について

2月議会 総括審査



三浦 英一 [由利本荘市]

- ◆ 人口減少対策について
- ・あきた未来創造部の取組の成果について
- ・あきた未来創造部の今後の取組と課題について

2月議会 一般質問



土谷 勝悦 [横手市]

- ◆ ツキノワグマの被害対策について
- ◆ 秋田県の自然環境について



佐藤 正一郎 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ 第3期ふるさと秋田元気創造プランについて
- ◆ 新たな行財政改革大綱について
- ◆ 豪雪対策について
- ◆ スタジアム整備について



三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ 新スタジアムの整備について
- ◆ 県・市連携文化施設について
- ◆ あきた発酵ツーリズムと人材育成について
- ◆ CLT関連事業について



吉方 清彦 [能代市山本郡]

- ◆ 能代産業廃棄物処理センター問題について
- ◆ 学校部活動のあり方について

6月議会

平成30年・第1回定例会
6月21日～7月13日

今回の補正予算は、5月18日から的大雨による災害復旧対策事業のほか、秋田の元気創造を加速するための事業や公共事業等について計上しました。

平成30年度 一般会計 補正予算

167億4,839万円

補正後の規模 **5,970億 839万円**

6月補正予算の主な内容

● **災害り災者見舞金** **1,300万円**
災害により被害を受けた世帯に対して見舞金を支給する。

● **災害査定調査事業** **3億1,800万円**
被害を受けた道路や河川等の公共土木施設について、災害査定申請に必要な調査等を行う。

● **災害復旧対策事業** **57億1,456万円**
被害を受けた土木施設、農業用施設等の復旧を行う。

● **新 建設 ICT 研修拠点活用人材確保・育成事業** **774万円**
建設産業を担う人材確保・育成するため、県内の建設 ICT 研修拠点を活用した研修等を実行する。

● **秋田犬の里魅力アップ促進事業** **1,697万円**
秋田内陸線の車両を秋田犬をイメージした内装に改修し、鉄道の魅力向上とインバウンドを含む観光利用の促進を図る。

● **新 地域における IoT の学び推進事業** **718万円**

県内 ICT 企業や行政等の産学官が連携し、高校生等を対象とした「地域 ICT クラブ」の創設により、未来の ICT 人材の育成及びクラブの自立的な活動を目指すための実証事業を行う。

● **新 患者のための薬局ビジョン推進事業** **515万円**

地域包括ケアシステムの一翼を担うかかりつけ薬局の普及を図るため、薬剤師の能力向上に向けた研修等を実施する。

● **新 コミュニティ生活圏形成事業** **278万円**

人口減少が進行する地域での持続可能な暮らしを守る取組を展開するため、新たなコミュニティ生活圏の形成に向けた県民意識の醸成を図る。

6月議会 一般質問



三浦 英一 [由利本荘市]

- ◆ イージス・アショアについて
- ◆ 風力発電について
- ◆ 子どもの安全対策について
- ◆ 鳥海ダム建設の関連道路整備について



三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ 人口問題について
- ◆ 新スタジアム整備構想について
- ◆ 水素社会実現に向けた取組について
- ◆ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録について
- ◆ イージス・アショアについて

6月議会 総括審査



佐藤 正一郎 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ イージス・アショアについて
- ◆ 県・市連携文化施設について
- ◆ スタジアム整備について

予算 特別委員会

副委員長 東海林 洋

副委員長として運営に携わりました

一般会計および特別会計の予算について審査



県外調査

〈群馬県・栃木県 / 平成30年5月7日～9日〉

- JA 甘楽富岡 下仁田支所
地域特産野菜の栽培について
(下仁田ネギやコンニャク等)
- 群馬県庁 農政部
群馬県における農業振興政策について
- 上都賀農業振興事務所
栃木県の地域農業の振興政策調査
- JA はが野 高機能物流センター
施設栽培によるイチゴ産地について
- 吉原一成さん(鉢物などの園芸農家)の農場
「とちぎオープンファーム」視察



JA はが野 高機能物流センター

渡部 英治の 県議会レポート

討議資料

今回は、2月議会での代表質問より「人口減少問題」「農業政策」について質疑の概要（抜粋）を報告します。



2月議会 代表質問での再質問

●人口減少問題について — あきた未来創造部の効果について —

渡部 全国で初の人口減少対策専門部として注目され、「攻め」と「守り」の視点で、スピード感をもって「若者や女性の定住促進」と「魅力的な雇用の場創出」など重点施策を強力に推進しようと、佐竹知事の肝入りでスタートした「あきた未来創造部」は、間もなく1年が経とうとしている。しかし、県人口は昨年4月に100万人の大台を割り、その後も減り続け、このまま推移すれば、98万人台が目前に迫る状況に

ある。果たして、新部設置のねらい通りの評価ができるのか。

また、本県の将来を担う若者の地元定着には、企業も行政もデータを集めて分析するだけではいけません。対策を掲げ、実践していかなければ成果は得られません。つまり、あきた未来創造部は実践部隊として具体的に動く専門部にしなければ実効性は得られないと考えますが、知事の所見を伺う。

知事 現時点では移住者数、Aターン就職者数、高校生の県内就職内定率が前年を上回っているほか、輸送機関連の有力企業の誘致に加え、県内の電子工業関連企業の雇用の拡大や設備投資の増大など、明るい兆しが見えてきており、この流れを確かなものにする取組を重ね、人口減少の克服につなげたい。第3期プランでは、6つの重点戦略のトップに「秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略」を掲げ、来年度は、Aターン就職のマッチング強化のためのシステム再構築や、子育て世代の経済的負担を軽減

する保育料助成の拡充、女性が働きやすい職場環境をつくる「あきた女性活躍・両立支援センター(仮称)」の設置などを行う。

事業実施にあたっては、あきた未来創造部が常にその時々状況を踏まえ、フレキシブルに事案に対応する実行部隊となって、庁内各部との連携はもとより、市町村、企業、関係団体等からご協力をいただきながら関連施策の実効性を高め、成果に結びつけていく。

●農業改革について — JAの役割と連携のあり方について —

渡部 国の政策改革など、水田農業を巡る状況が大きく変わる中、今後、JAはより大きな役割を担っていく必要があると考える。しかし、農業の競争力強化に向けた取組を着実に推進しなければならない矢先に、私の地元であるJA秋田おばこの巨額赤字問題が発生。大変ショッキングな問題だが、農家の不満と不安を解消するためにも1日も早い解決が求められている。とにかく農家の皆様がやる気を無くさないよう、秋田県

農業のイメージダウンにならないよう、万全の体制で臨むべきと考えるが、知事の所見を伺う。

また、改正農協法の下で自己改革を進めるJAグループの本県農業の果たす役割と来年度からスタートする第3期ふるさと秋田農林水産ビジョンの目指す姿の実現に向け、県としてJAグループとどのような形で連携し、農業施策を展開していくのか、知事の所見を伺う。

知事 県では、現在、本県農業の持続的な発展に向け、複合型生産構造への転換を加速するとともに、秋田米の戦略的な生産・販売を強化するなど、農業の成長産業化に全力を挙げて取り組んでいる。JAについては、こうした政策を推進するにあたり重要なパートナーと位置づけ、今後、立地条件や市場動向等を踏まえ、複合化をリードする重点品目を定めながら産地拡大を図るとともに、米についても業務用米や契約栽培の拡大など、需要と結びついた戦略的な米づくりを、農家の先頭に立って強力に進めていただくことを期待する。県としても、JAの意欲的な取組に対し、

メガ団地事業や夢プラン事業等により後押しし、3期プランに掲げる本県農業の成長産業化に向け、共に邁進していく。

また、JA秋田おばこの問題は、単に一JAの不祥事ではなく、農協組織全体の存在意義さえ問われている事案であると重く受け止め、JAグループの総力を挙げて対処してもらいたいと考える。県としても、JA秋田おばこが、1日も早く経営を立て直し、農家の不安が払拭されるよう、引続き職員を派遣し、国と連携しながら、まずは全容の解明と経営改善計画の策定に向けた指導を強化していく。